



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



2022年1月29日 発行 第34号

ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411

<5年・国語>「メディアの利用法や長所(○)・短所(×)」について話し合った後、こんな発表がありました。

テレビ：○世界中のことがわかる。小さい子供でも大丈夫。大きなスクリーン。×決まった時間。チャンネルが限られている。出されたことだけ。
インターネット：○いろいろなことがすぐに出てくる。自分で調べられる。×子どもに有害なものがある。うそか本当かわからない。

新聞：○持ち運びができる。いつでも見られる。保存ができる。じっくり読める。

ラジオ：○何かをしながら聞ける。聞くだけで分かる。×映像がない。聞こえない人がいる。手の動きがない。

こ
ん
な
授
業
が
見
ら
れ
ま
し
た
!

<幼稚部>「今日は1月22日、土曜日です。」から始まりました。

そして、「十二支の歌」。十二支が言えるとかっこいいですね。歌にすると覚えやすいですね。



<高校・国語>

「ここからがおもしろいところ!」「『あはれ』聞いたことありますか。」

「かわいそう」

「この時代の『あはれ』はちょっと違います。『しみじみと感慨深い』感動しているんです。」

「豆まきの日(2月3日)」(こどものカレンダー)

昔、冬から春に変わる変り目を「節分」と言いました。「節分の日」には、豆をまいて、悪い鬼や病気を追い出していました。さあ、元気にうちの中の鬼も、心の中の弱虫鬼も、みんなで追い出しましょう。

日本には、「鬼」の出てるお話や絵やおもちやがたくさんあります。「鬼」とは、人のほかに、動物を捕まえる怖いもののことを言ったり、力や知恵が他の人よりずっと優れて強いもののことを言ったりします。それは、昔の人たちが「鬼」を恐れたり、敬ったりしながら暮らしをよくするように作り上げてきたからです。



<おうちの方へ>

昔、四季の気候の変わり目を節分と呼んでいましたが、立春の前日の節分だけが残りました。その夜は、鬼の嫌いなヒイラギの葉つきの枝にイワシの頭をさして豆まきをします。これは宇多天皇のころ(890年)鞍馬山の鬼が都へ乱入しようとしたとき、多くの豆をまいて追い払ったという伝説にもとづいたもので、新しい春を希望を持って迎えたい気持ちの表れだと言われています。

おめでとうございます！

短歌・俳句コンテスト入賞報告

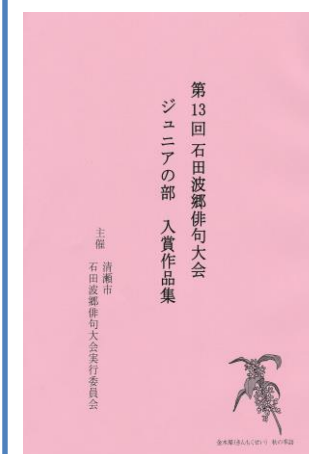
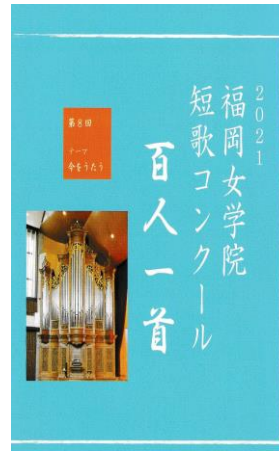
俳句・短歌クラブで創作し、応募した作品が
入選、入賞しました。

高校生の部

十七年眠つたミが出てきたよ誰もさみしくないように

(アメリカ) ワシントン日本語学校 一年 カルボスキー 由莉香

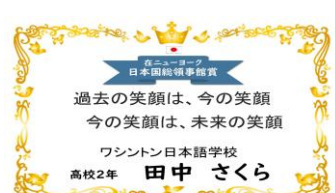
(選評) 米東部 十七年周期で羽化する蝶の大群 生き延びる為のメカニズムには示唆も
多く、現地の好意的な声は日本でも報道された。時代ならではの「生命の賛歌」
が心に響く。(松本 健)



黒い種へそからスィカ生えるかも
ワシントン日本語学校 六年 八代 幸司



賞状



フィラデルフィア日本人会
東和エッセイコンテスト高校生部門
「在ニューヨーク日本国総領事館賞」

以下、表彰式での田中さくらさんの
コメントです。

現在、私はバージニア州に暮していますが、フィラデルフィアの近くで生まれ、8年前までそこで暮らしていました。私が日本語の読み書きができるのも、フィラデルフィア補習校とワシントン日本語学校に通ったお蔭です。皆さんに、感謝します。さらに、フィラデルフィアに縁があるエッセイコンテストで賞をいただき、とても嬉しく思います。

このエッセイを書くときに、これまでの自分を振り返りました。このコンテストのエッセイのテーマに「コロナ禍」という言葉に出会ったとき、自分はどのように感じるかを見つめてみました。色々なメディアで報道されていることを見聞きすると、コロナウィルスは、世界に悲しい、怖い、大変なことをもたらしている印象を強く受けます。しかし、私にとっては「わざわい」であるばかりでないことにも気づきました。

世界が変わったお蔭で、自分の気持ちを内にも向けることができるようになりました。自分とつながって、世界を見ると、命の大切さを前よりも深く知りました。

家族がいる、健康である、学べるのは当たり前でなく、とてもありがたいことです。その有難さを前よりも知りました。これからも世界は変わり続けると思います。だからこそ、自分に起こることをどのようにとらえるかが大切だと思います。

「過去の笑顔は、今の笑顔。今の笑顔は、未来の笑顔」というタイトルを私はエッセイにつけました。みんなで笑顔であれば、その過去は、その先の今の笑顔になります。今の笑顔は、未来の笑顔になります。

笑顔があふれる世界になることを願っています。